

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 12月 20日

事業所名 こばんはうさくら 廿日市教室

保護者等数(児童数) 24 回収数 20 割合 83%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16	1		3	教室・その他のスペースが広い解放感がある。	玩具の整理整頓し、落ち着いて遊べるスペースを常に確保することを心掛ける
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	11	6		3	適切だと思います。	常に研修や意見交換でスキルアップしていく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	9	2		9	落ち着いて生活出来るスペースがあり、本人も成長している。	死角になる箇所があるので、子どもの行動を常に見守り、安全・快適に充分気を付けていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	19			1	ブログで拝見する限りではとても清潔感が感じられます。	個人の活動、年齢に合わせたプログラムを考え、固定化しないように支援する。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	16	4			普段から相談に乗って貰い、担当者会議でも支援して頂き真剣に取り組んで下さっています。分かりやすい計画内容です。	
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	8	5		7	ガイドラインの内容はよくわかりませんが満足しているのだからこれも宜しくお願い致します。	その時の状況に対して、対応できる療育を目指していく。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	16	2		2	色々なイベント・年齢に合わせた行事が用意してある。	相談内容に対して解決につなげられるように保護者を共有していく。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	15	1		4	子どもがわくわくする活動内容だと思います。	
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	2	5	10	認識していません。	個人情報もあるので、保護者の方との話し合いで決めていく。
保護者 への 説明 等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16	3		1	最初の説明でお聞きしました。	契約時だけでなく、疑問に思われないうち、配慮する。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	13	4		3		常に目を配り、個別カンファレンスを続けていく。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	7	4		9		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	16	2		2	ノートやお話で詳しく説明を受け、相談にものって貰っている。	児童の発達段階はスタッフ全員で理解し、内容も個別にステップアップしていく。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	11	5	1	3	気が付いた時になんでも相談させて頂くと即答して頂けるので助かります。	ノートに書けないことを伝えるように心掛ける。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	1	9	7	そのような会には行かせてもらった事がないです。	年に一度でも開きたいと思っているが、なかなか難しい。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	17	1		2	細かい事でも気になり、電話でもよく相談させてもらいます。忙しい時間帯でも相談ののって貰って有難いです。	保護者の方が何を知りたいのかを常に考え、迅速に応えられるようにしておく。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	13	3		3	1日の様子・最近の様子など詳しく説明してもらっています。	今後も続けていく。
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	19			1		個別支援を渡す、6か月ごとにお伝えしたいと考える活動・行事連絡は伝えていく。
非常時 等の 対応	19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	17	1		2	注意されてると思います。	
	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	6	4	1	9	感染症にはとても気を使っていらっしゃると思います。すぐに連絡下さり、助かっています。	ブログに載せていく。
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	13	3		4		年に二回の実施の様子を、これからもブログに載せる。
満足 度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	19			1	今日行く?と聞くと、行くよ〜。と返事が戻ってきます。楽しみにしています	期待を裏切らないように良い支援をしていく。
	23 事業所の支援に満足しているか	17	3			子どもの笑顔を見ていれば、私も安心です。満足しています。	期待を裏切らないように良い支援をしていく。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 12 月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 廿日市教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		児童が安全に過ごせるスペースを保つため、使わないものは片付ける。	
	2 職員の配置数は適切であるか	4	2	スタッフの人数が少ないので、担当を決め配慮している。	定員になるように、スタッフの確保をする。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		どこに何があるか、どこに片付けたらよいか、工夫している。	児童がわかりやすく安全に過ごせるよう、配慮していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		十分な広さはあるので、共通の遊び、生活ができるようにする。	苦手を克服し、成長してもらえるよう支援する。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2	日々、疑問や問題にぶつかった時、全スタッフでメモを取る。	やるべきこと・問題点をスタッフが情報交換、共有しておく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	2		希望者だけでも保護者面談の機会を設ける。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	ブログでなるべく教室の日々の様子が分かるようにする。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	自分で受けた研修を探し、スキルアップに繋げる。	研修日時を調べて、月ごとに提示しておく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	1	成長したところは次のステップになるよう、保護者のニーズは細かく聞き取る。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		意見共有、研修参加なので、専門的立場から療育を進めていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2	4		気付いたことは、すぐ書き留めて、忘れないように共有、カンファレンス、アセスメントに記入する。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	1	児童の成長は常に話し合う機会を持ち、カンファレンスで計画を作る。	これからも情報共有を大事にする。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		プログラムにより、波があるので、固定化しないよう努力している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	2	児童の個別特性を理解しておくことで、成長に合わせた計画を作る。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	前日に次の日の申し送りを書いておく。内容を確認し、役割分担する。	担当は責任を持つ。問題が発生した場合、みんなで共有する。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			スタッフのはあ試合の時間を多く持つ。児童・保護者の支援の幅を広げる。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		連絡ノートを作り、共有して解決につなげる。	
関係機関や保護	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		個別支援計画を説明する際、モニタリングで再確認する。	
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	2		
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		6	コロナが落ち着いた、モニタリングの機会が増えた。共有する時間が持てる。	日頃からコミュニケーションを取り、相談しやすい状況に持っていく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		6	小児科とも定期的に電話でモニタリングを行っている。	相談支援員、療育センターとの話し合いを持つ。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2		事業所、小児科との連携を取っている。	相談支援員、療育センターとの話し合いを持つ。
25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	4	個人情報に充分注意しながら情報交換をさせてもらっている。	学校・幼稚園など送迎の際、話す機会を増やしていく。	

保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	4	様子を知りたい児童は連絡して、情報共有をさせてもらっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	5	電話で相談する時間をとってもらっている。	コロナが落ち着いたので、連携していきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	3	個人情報関係で活動はどうしたらいいのか、検討中である。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		6	以前、参加した際、勉強になることが多かった。	コロナが落ち着いたので、積極的に参加していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		その日の変化は申し送りに書いておき、ケース会議で共有していく。	1日変化が全くないということはないので、細かいところまで見て、気づきに繋げていく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	2	その時その時の対応のスタッフ一同答えられるように、日頃から解決策を出しておく。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に説明の中に入れていく。	スタッフが誰でも答えられるよう、理解を共有している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	2	説明はしていますが、1度では理解できない子どももありますので、その都度説明を付け加えます。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	送迎時、電話、来所などで時間を取っている。	時間を決めて、的確に応えられるようにしている。真剣に悩んでいる方が多いので、いろいろな相談にのれるように、1回の時間を決めていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6	希望者だけになってしまうので、検討中。	1年に2回ぐらいの間隔で、参観形式で行いたいと考えている。
非常時等の対応	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	1		ケース会議、カンファレンスを欠かさず、相談を受けたことは共有する。相談には時間をかけず、すぐに対応できるようにする。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		厳重に守られている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1	児童だけでなく、保護者の相談にも対応する事が、自分たちの仕事であると熟知しています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2		
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		保護者の方からの質問も多く、避難場所や訓練の様子、マニュアルを、文章やブログで公開する。	教室外・教室内どちらでの観戦に関わらず、報告は義務である。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		年2回、夏、冬に実施している。		
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		契約時に把握している。	特に要注意して、その都度、様子の共有を怠らないようにしている。	
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		契約時に把握している。成長に合わせてアレルギーが改善されたり、新たに見つかったりするので、定期的に情報共有する。	特に要注意して、その都度、様子の共有を怠らないようにしている。	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	小さいことでも情報公開し、資料として、会議でも共有する。		
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		研修を受ける時間を設けている。	虐待に繋がる要素を常に頭に入れて行動に責任を持つ支援をする。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	2	虐待については研修も多くあるので、スタッフ共有で頭・行動で身に付けておく。	虐待に繋がる要素を常に頭に入れて行動に責任を持つ支援をする。	